

ひし故に、其海を血沼海といふ也と見えしは、今の和泉國の南海也、さらば古にヌといひしものは後にいふ所には同じからぬ歟、倭名抄に、瀦の字、讀てヌマともウマともいひけり、後にヌマといひしものは水たまりぬる所の泥沙のために埋まりて、其水淺きをいひしと見えたり、今も俗にそれらの所を沼とはいひける、俗に泥濘の地をヌカリミなどいふは、沼也。

〔倭訓栞前編二十一〕ぬま 沼瀦などをよみ、神賀詞に、沼間と見え、新撰字鏡に、淇もよめり、日本紀

に、淳名井、淳名川などいへり、さればぬなの轉せるなるべし、日本紀に、要害をぬまとよめり、沼より出たる詞なるべし、又要字のみもよめり、ぬまるといふ詞も沼より出たる成べし、

〔萬葉集十一〕寄物陳思

隱沼乃、下爾戀者、飽不足、人爾語都、可忌物乎、

〔八雲御抄五〕沼

つくまえのぬまり近ひ後拾、みくいならの上野万、草いかほの同山万、池也、いはかき名所、万、只非
かほやり同、万、可保夜とかけり、仍あさかの陸古はなかつみ、あさかの沼に詠、菖蒲ひがことな
頼抄、たまえのあし千、清輔あさ、は千、顯仲あかすの武

〔藻鹽草五〕沼

冴野沼山城 ○ 玉井沼大和 ○ 小墾田沼攝州 ○ 玉江沼同上 ○ 淺澤沼攝州 ○ 筑摩沼近江 ○ 富士野

沼駿河、いならの沼、上野 ○ 伊香保沼上野 ○ 石垣沼上野 ○ 可保夜沼上野 ○ 石井沼奥州 ○ 大浦田

沼伊勢、或筑前 安積沼奥州 ○ 小崎沼武州 ○ あすかの沼武州、八雲御説、おくるさきの沼、奥州 ○ みかはの沼

〔東海道名所圖會五〕富士沼 吉原の北にあり、富士八湖の其一也、丙辰紀行に羅山子のいへる、古

への善徳寺村、今は今泉といふ、治承の戦場の遺跡はこれなりと書り、按ずるに、昔は此沼東西三里餘もありて、富士川のほとりまでも續き、平氏の軍勢水鳥の羽音に驚き敗走せしも、此沼なら